

平成 29 年度 春の企画展

目となり手となり足となり
～戦傷病者を支えた義眼・義手・義足～

開催趣旨

戦傷病者の中には、義眼や義手、義足などの補装具と共に生きてきた人たちがいます。彼らは戦闘や訓練での負傷や病気によって身体の一部を失い、その代わりに補装具を着けて生活することになりました。戦後、身体障害者という立場で多くの労苦を体験しましたが、自らの努力と妻をはじめとする周りの人たちの支えによって乗り越えてきました。

一口に補装具を着けて生活してきた戦傷病者の労苦といっても、様々な負傷や病気が原因となっているため、一人ひとり異なる労苦があります。補装具を付けて日常生活を送れるようになるには、苦しい訓練に耐えなければならず、また、苦しい訓練に耐え日常生活を送ることができるようになって、補装具では自分の手足と同じ動きをすることは難しく、就職を断られたり、仕事をやめさせられたりすることもありました。さらに、現在ほど障害者への理解がなかったため、様々な差別を受けることもありました。

今回の企画展では、目や腕、脚などの体の一部を失い、補装具を使って生きてきた戦傷病者たちの労苦とそれを乗り越えた努力を、補装具の中でも代表的な義眼、義手、義足を中心に、そして証言映像と共に紹介します。

*補装具：失われた身体の一部や機能を補うための道具。義手、義足などの義肢や杖、車いす、コルセットなど、さまざまな形、機能のものがああります。

主 催 : しょうけい館 (戦傷病者史料館)
会 期 : 平成 30 (2018) 年 3 月 6 日 (火) ～5 月 6 日 (日)
会 場 : しょうけい館 1 階
入 場 料 : 無料
開 館 時 間 : 10 : 00～17 : 30 (入館は 17 : 00 まで)
休 館 日 : 毎週月曜日・5/1 (ただし 4/30 は開館)
内 覧 会 : 平成 30 (2018) 年 3 月 6 日 (火) 10 : 00～12 : 00

展示構成

1. 受傷・治療、そして社会復帰まで

このコーナーでは、眼や手足を失う原因となるケガや病気はどのようなものだったのか、また、戦時中にどのような治療が行われたのかを、戦傷病者の証言や当時の資料をもとにみていきます。さらに失明したり手足を失ったりした兵士たちが戦中に受けた、機能回復訓練（リハビリテーション）や職業訓練などの傷痍軍人支援について解説します。

*傷痍軍人：戦傷病者のこと。

当時は戦争でケガや病気となって障害者となった軍人をこう呼んでいました。



(左上) 義手を着けて仕事をする傷痍軍人

(右上) 恩賜の義手

(左) 傷痍軍人錬成大会

(義足の兵士の軍事訓練)

2. それぞれの労苦

補装具と言っても義眼、義手、義足など、さまざまな種類があり、それぞれに苦労したことも違いがあります。このコーナーでは補装具の種類とその労苦を紹介します。

2-1. 義眼

義眼の形状は大きなコンタクトレンズのようなものや半球状のものなど様々ありましたが、必ずしも装着者にぴったり合う義眼を手に入れられる訳ではありませんでした。当時の義眼はガラス製で重く、個人の状態に合わせた加工をする技術もなかったために、装着時に違和感や痛みを覚える人や、涙腺が切断されている場合には頻繁に乾きを感じる人も多くいました。また、義眼を人に悟られることに引け目を感じるなど、義眼と共に生活していくためには人それぞれに多くの苦しみや克服すべき課題がありました。



2-2. 義手

腕を失うと、体の片側が腕の重さの分だけ軽くなるため、残った腕の方に体が傾いてしまいます。この状態を直すために、腕に近い重さの義手を着ける必要があります。戦傷病者はその重さに苦労しながらも訓練を重ねて、社会復帰をしていきました。

また、失った腕が利き腕かどうかで日常的な動作にも影響があるため、その後の生活が大幅に変わってしまいます。それまでは当たり前のように行っていた文字を書くなどの動作を最初から学び直すなど、多くの労苦がありました。



2-3. 義足

義足は、脚を失った人にとって、日常生活の中でも歩行という基本的な動作に欠かせない補装具です。義足で歩く場合、足の断端(切断面)と義足の接続部に体重がかかるため、義足の形が合わなければ激しい痛みを伴うこともあり、時には断端が擦り切れて化膿してしまうこともあります。また歩行訓練では普通に歩けても、現代のようにバリアフリーという概念もなく、でこぼこ道や階段などの段差が多かったため、街にでるとよく転んでしまうことがありました。



関連イベント

講演会

テーマ：「日本の義肢の戦後から今日まで」

講演者：義肢装具士 田澤泰弘氏

(元日本義肢協会理事長、株式会社田澤製作所代表取締役)

日時：3月24日(土) 13:30～14:30

場所：しょうけい館1階 証言映像シアター

その他：席に限りがありますので(約30席)、参加ご希望の方はしょうけい館までご連絡ください。

証言映像上映

内容：補装具と共に戦後を生きてきた戦傷病者の証言映像を上映します。

日時：会期中毎日 10:00～17:00

場所：しょうけい館1階証言映像シアター

その他：鑑賞自由・無料

フロアレクチャー

内容：学芸員が企画展の展示解説をします。

日時：日程未定 14:00～14:30

場所：しょうけい館1階

その他：当日参加自由・無料